

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Summer 2020

Vol. 47

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJJYUEN

TOPICS

CARE MEMO

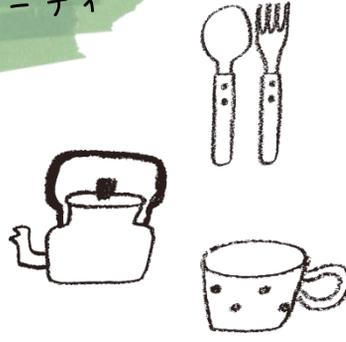
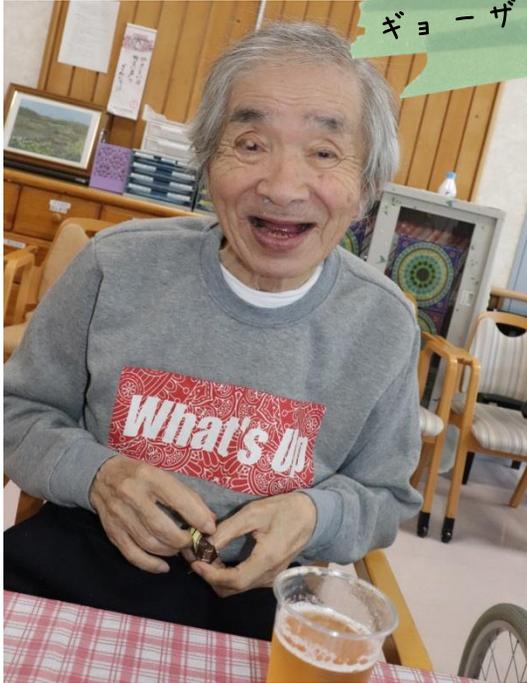
HOJJYUEN'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOJJYUEN×FAMILY



ギョーザパーティー



5月 男性利用者様を対象にギョーザパーティーを行いました。厨房職員が目の前で焼くギョーザとビールで宴会気分。終わった後には無数の空き缶が転がっていました(笑)。

カラオケ大会



5月 のど自慢が集まり、カラオケ大会を行いました。はじめは照れた様子でしたが徐々に気分が盛り上がりマイクを握って自慢ののどを披露されました。

デザート
ビュッフェ



6月 デザートビュッフェで皆さん大好きなスイーツをお楽しみいただきました。

デイサービス

お花見



4月 今年は園内の桜でお花見をしました。青空の下、満開の桜を見て喜ばれていました。

屋外活動



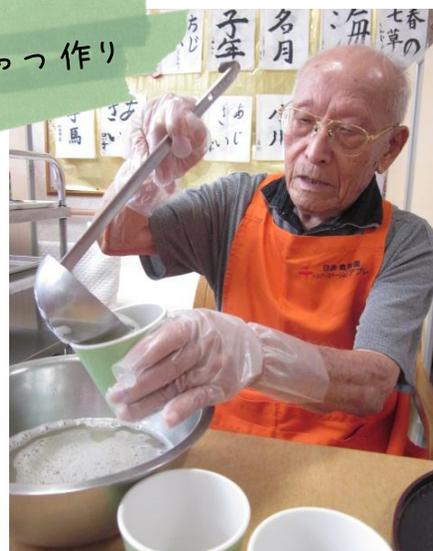
5月 天気が良い日はみんなで中庭に出て畑しごと。終わってから外でおやつを楽しみました。

園芸活動



6月 野菜の水やりの後には成長を確認。大きくなったかしら？

おやつ作り



6月 梅ゼリーを作りました。

地域ぶらり情報



旬や食材にこだわった味

門司区鳴竹の高架橋下すぐに古民家をリノベーションした食堂『NIJI』があります。中央市場入口にキッシュ&タルトのテイクアウトのお店をOPENされていましたが、2020年2月に販売と食事もできるお店『NIJI』をOPENされました。地域には高齢者の方が多いのですが、周辺にはお店が無い環境なため地域の方の憩いの場になれば、また、同じように古民家をリノベーションした店を増やしていき、地域を活性化できれば！と、この地にお店を開かれたそうです。

『NIJI』では、8~10種類のオリジナルや季節物のキッシュやタルトの販売と、パテやキッシュをメインに、地元の海鮮や季節の野菜を使用し手作りにこだわったプレート料理を提供しています。特に低温調理した野菜スープは野菜の旨みが凝縮されていておすすめです。お休みは不定期ですので、Face Bookで事前に確認を。お店のロゴにも使用されているユーフォニアムのライトの光に照らされて『NIJI』の美味しい料理をゆっくり味わってみてはいかがでしょうか？

キッシュ&タルトのお店

NIJI

北九州市門司区

鳴竹2丁目1-2

定休日 不定期

OPEN 11:00~17:00



あとがき

新型コロナ渦で面会の制限をはじめて既に4ヶ月。私達職員にとっても、健康管理や日常生活での注意など緊張の日々が続いています。そんな中6月からリモート・ドライブスルーでの面会をはじめめるなど、今の状況でも出来る最大限のことを検討、実施しています。面会を終えフロアに戻って来られた利用者様を見ると、やはり、好きな人と会って会話をすることが、どれだけ大切でかけがえのないことなのか、と考えさせられます。また、利用者様お一人おひとりの当たり前の生活を支える上では、ご家族の力が欠かせないのだということを改めて考えさせられました。

不自由な状況が続いていますが、豊寿園では今出来る最大限を職員が模索し、常にサービス内容の改善に向けて取り組んでいます。そういった豊寿園職員の頑張りを紙面から感じていただけましたら幸いです。これからも豊寿園に是非、ご期待ください。

豊寿園広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、村上友菜さん(事務課 主事)です。今年大学を卒業後、豊寿園に入職されました。職場を離れ、リラックスした様子で屋外での撮影に協力してくれました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、昨年12月に豊寿園でお看取りさせていただきました藤原浅吉様の利用開始から最期の時までの経過について、奥水介護課長の手記をもとにご紹介いたします。「広報誌に載せてもいいですか？」とご家族へお尋ねすると、「父も喜びます」と快諾を頂きました。

藤原様と豊寿園の出会い、平成30年6月ショートステイのご希望をいただきご自宅に面談のためお邪魔したところから始まりました。車椅子の奥様と2人暮らし。数年前から認知症の症状が出現しており、夜中になると家から出て行つては同じマンションの違う階の家に入ろうとされています。近所の方の理解もあり、連れて帰ってくださることもあったそうです。家から出ることを奥様が止めると興奮され大声をあげて出て行こうとされる為、そのたびに近所に住む息子さんが探しに行くという生活を送られていたそうです。

「大変なことになった」と息子さんから連絡が入りました。



写真 保育園児との交流で笑顔を見せられる藤原様

はじめてお会いした時は、自宅内では伝い歩きをされていましたが、転倒することもあり在宅生活はかなり厳しい状況と感じました。早々にショートステイを利用していただこうと、準備をしている最中、またまた家を出て行かれ顔面から血を流しているところを発見されました。「大変なことになった」と息子さんから豊寿園に連絡が入りました。特養への入所まで長期的にショートステイを利用いただくことになりました。

「藤原さん、あなたは95才ですよ」と言いたくなりました(笑)。

利用開始と共に、「これはなかなか手強いぞ」と感じました。昼間とうとうと・・、起こすと怒る。夜になると元気に「かーさん」と叫ばれる。時々奥様を呼んでいるのかと思いきや、ご自分のお母さんと呼んでいるとのこと。「藤原さん、あなたは95才ですよ」と言いたくなりました(笑)。

ショートステイ利用開始後も、尿閉や誤嚥性肺炎で入院をされ、利用開始から3カ月後に特養に入所されました。その時には、入所契約にこられた息子さんに、「食事摂取が困難になった場合はどうしますか?」と言うシビアな話をせざるを得ない不安定な状況でした。



写真 行事中の一コマ。穏やかな笑顔をたたえながら楽しそうにされていました。

「職員は「なんで、どうして・・」と顔が引きつりながら報告をしてきました。機嫌が悪くなるとテーブルを拳で叩く為、よく手に大きな内出血ができていました。血液サラサラの薬を飲まれていたこともあり、ある日その内出血はあれよあれよと言う間に大きな血腫のようになってしまいました。職員は「なんで、どうして・・」と顔が引きつりながら報告をしてきました。息子さんに電話で経過を説明すると、「家では頭から血を流して帰って来たり、そんなものではなかった。気にしません」と笑って許してくれました。息子さんのおおらかさは、やはり藤原さんDNAなのでしょう。笑顔が素敵(写真参照)でとにかく職員が愛したくなる素敵なキヤラでした。夜中に叫んでも、職員が側で話をしながら夜勤を共に過ごしていました。

—豊寿園でゆつくりと、最期までご本人らしく穏やかに過ごして欲しい。—

9月に入所したのに、食事の摂取量にムラが始め11月には看取りの話をご家族とすることとなりました。元々の持病に治療が必要な状況でしたが、ご本人が医療行為に抵抗されることもあり、ご家族は治療や延命も希望されませんでした。豊寿園での話し合いの結果、病状の変化があっても、豊寿園でゆつくりと、最期までご本人らしく穏やかに過ごして欲しいということに一致したため、その日から看取り対応を開始することになりました。

ご家族と話し合いをしたその日の夜眠られる様子はなく、元気にベッド上で起き上がり職員を呼んばれていました。日中はうとうととされて、急に「もう帰らないかん」と・真顔になります。夜間は「か〜さん」と起き上がり、柵に足を掛けたり眠る様子がありません。私たちには、そんなご本人をしげしげ見ながら「看取り対応なんですよね：？」と心の中で呟いていました。それから、介助に「ありがとう」と笑顔を見せてくれたと思えば、暴れて血圧も計れないなど、ご本人らしい日々を過ごされていきました。そして、最期の時は少しずつ近付いてきました。

11月21日 高カロリーのゼリーとスコーンドリンクを200cc朝・昼摂取されました。日中より活気が見られ、

「か〜さん！帰るよ〜！」と大声を出され、テーブルを叩いて職員を呼んでいます。午後3時、5度の発熱。喉からはゴロ音が聞かれるため痰の吸引を行いました。夕方息子さんが「最期の時は国鉄時代の服を着せてほしい」と持参されました。その夜はゆつくり休まれ、翌日には熱も下がっていました。朝「おはよう。きついね〜」と返答をされました。その日を境に、口から何か入ると嘔る、ということが増え、食事・水分の摂取量が減っていききました。ご自分で摂ろうとされないため職員が介助しようとしても吐き出します。夜2〜3時間眠っていることがあると、職員は少しドキドキしていました。寝てくれないと困るけど、寝ていると心配、という不思議な気持ちで見守っていました。

11月26日：甘いゼリーを介助するも、飲みこみが悪く半分のみ。「おいしくないと」言われます。

11月27日：日中ベッド上で過ごされ、眼を閉じています。声掛けに「元気よ」と返答。夜はオムツを外したりと活動。「あ〜」と言いつつ、安心して眠る職員。

12月1日：前日の夜から目を閉じていることが増え、職員は頻回の様子を見に行きました。朝の挨拶に、返答はありませんが、目を開け頷いてくれました。そうかと思うところそりズボンをお脱ぎとされたり、髭剃りをしようとする手でお脱ぎのけり気力がありません。水分を介助するとムセ、吐き出し、ほとんど摂取できません。ベッド上で服をお脱ぎとされるため、着せようと

すると抵抗されます。体を起こしたり横になつたりと、体のやり場がないようです。午後、急に呼吸が荒くなり、尋ねると「きつい」と言われるも、体の動きは止まりません。やや顔色が悪く、手足が冷たく色が悪くなってきました。口の中を清拭・保湿を行うと舌で口唇を舐めようとされますが目は閉じたまま。ご家族へ連絡し、「16時くらいに皆さんが来ますよ」と伝えるとゆつくり目を開けられました。職員に「藤原さん、いま目が開いているから」と声をかけると、次から次から職員が、「藤原さん」と声かけにきました。そして16時を過ぎたころから、呼吸が弱くなってきました。16時半頃には呼吸が止まりそう。「家族はまだですか？」と事務所に連絡すると、「今、来られました」。ご家族に「急いでください」と促し、お部屋へ。皆さんが到着し、その顔を確認し安心されたのか、大きく一呼吸された後、ゆつくり呼吸が止まりました。ご家族が到着するまで待つていたのでしょうか。そして、最期のお別れを言われたのでしょうか。藤原さんは潔くて、素敵な男性でした。きつと大好きなお母さんに会っているに違いありません。

余談ですが、介護職員と看護師、相談員でお身体をきれいにしておいて、国鉄時代の制服を着ていただきました。腕章がついていたのですが、左右どちらに付けるのか分からず右に着けました。「ご家族にお聞きしても「さ〜？」と、後で調べると左でした。本当に藤原さんごめんさい！

Summer 2020

Vol. 47

TOPICS

CARE MEMO

HOUSYUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

HOUSYUEN X FAMILY



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUSYUEN